



参考資料 1

播磨町都市計画マスタープラン(立地適正化計画)ダイジェスト版

表紙

デザインは別途作成中

目指すべき都市の将来像

播磨町の目指す将来像

いいとこいっぱい！ 笑顔いっぱい！
みんなでつくる ふるさと はりま

☆日々の暮らしを快適で便利に過ごすことができるまち

☆いつでも安心して暮らせるまち

☆心安らぐふるさととして、いつまでも愛し、誇りに思えるまち

* 播磨町の目指す将来像(将来のまちの姿)は、「第5次播磨町総合計画」で示されている考え方に基づいています。

都市づくりの目標

「播磨町の目指す将来像」を踏まえ、以下の目標を設定します。

未来につながる持続可能なまちづくり みんなでめざす
住みよい はりま

立地適正化計画の考え方を踏まえ、現在、町が直面している課題への対応に加え、将来を見据えた備えとして、次の3つの視点を大切にしながら、人口減少が進む中でも、将来にわたり持続可能な暮らしやすいまちを目指します。

- ①あらゆる世代が町内に住み続けられる良好な居住環境の維持・充実
- ②まちの活力や利便性の向上
- ③都市機能の維持・効果的な立地の誘導

計画の概要

都市計画マスタープラン

町がこれからどのようにまちづくりを進めていくのか、その基本的な考え方や方向性を示す計画です。土地の使い方や、施設の配置、道路などの整備についての考え方をまとめています。

立地適正化計画

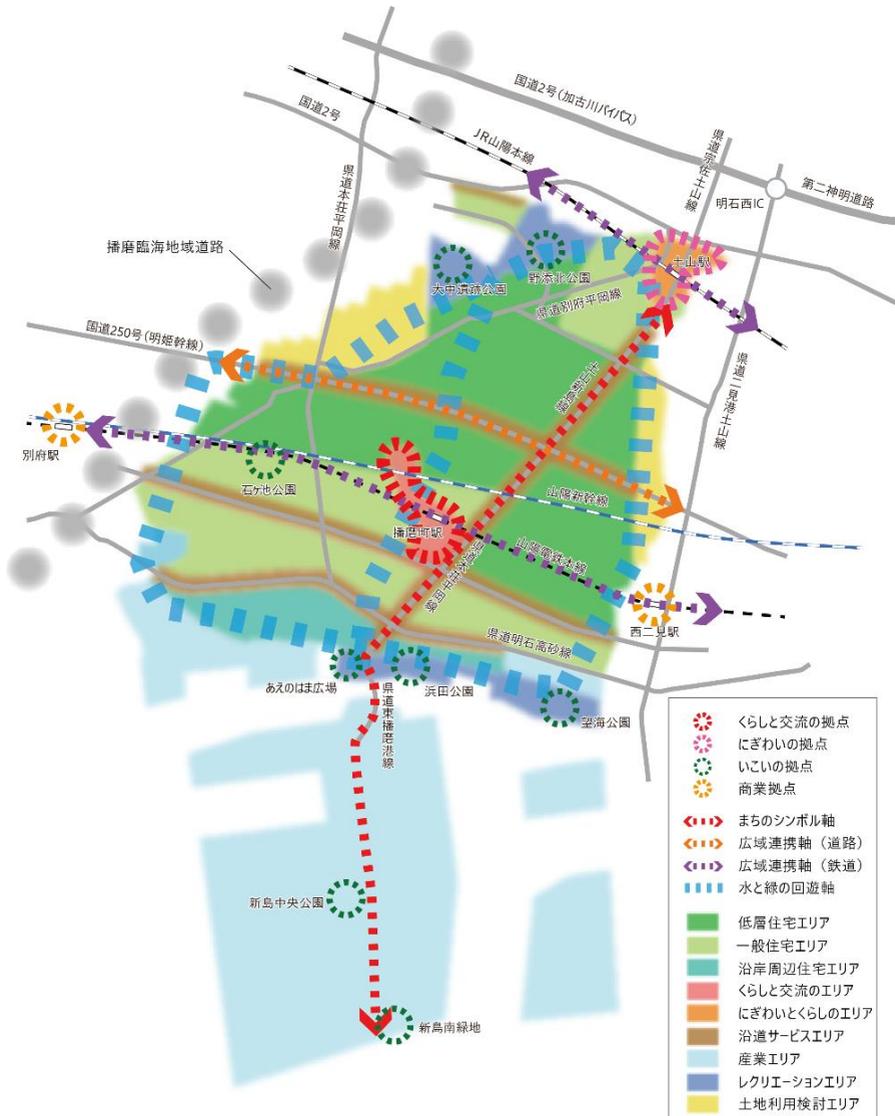
人口減少や高齢化に対応しながら、住まいや生活に必要な施設をできるだけ集約し、公共交通や防災とも連携した、持続可能なまちの形を目指すための計画です。

* 今回の播磨町都市計画マスタープランは、立地適正化計画も含めた、一体的な計画となっています。

将来都市構造

播磨町では、鉄道駅周辺を中心に、暮らしに必要な機能が集まる拠点を
つくとともに、近隣市の拠点機能を活かし、公共交通や主要な道路で各
地域をつなぐ、コンパクトで持続可能な構造とします。

また、北部・南部の拠点を核に、住宅地や産業用地、臨海部それぞれの
特性を活かしつつ、防災にも配慮した都市構造の実現を目指します。



(2) 都市交通に関する方針

- ①環境にやさしく利便性の高い交通施策の推進
- ②都市交通施設の長寿命化の検討と適切な維持・管理

(3) 都市環境および自然環境に関する方針

- ①播磨町環境基本計画に基づく、地域との協働による豊かな環境づくり
- ②身近な健康づくりやストレス緩和の場としての公園・緑地等のオープンスペースの充実
- ③上下水道の適切な維持・管理
- ④誰もが安心して安全に暮らせるバリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくり
- ⑤脱炭素社会の実現と環境負荷の低減に配慮した都市づくり
- ⑥川沿いの遊歩道・植栽等の保全や環境整備
- ⑦海沿いのレクリエーション資源を生かした一体的な環境づくり
- ⑧環境資源としての農地やため池の活用等による環境との共生

(4) 市街地整備に関する方針

- ①安全、便利で快適な市街地の形成
- ②空き家対策の推進

(5) 都市防災に関する方針

- ①播磨町地域防災計画、播磨町水防計画に基づく防災対策の強化
- ②事前復興準備の検討

(6) 景観形成に関する方針

- ①歴史的資源や自然的資源などの個性を生かした播磨町らしい景観づくり
- ②播磨町を印象づける景観の創出や維持、PR



防災指針

防災指針は、津波・浸水などの災害リスクを踏まえ、暮らしに必要な施設誘導とあわせて、防災・減災の視点でまちづくりを進めるための方針です。

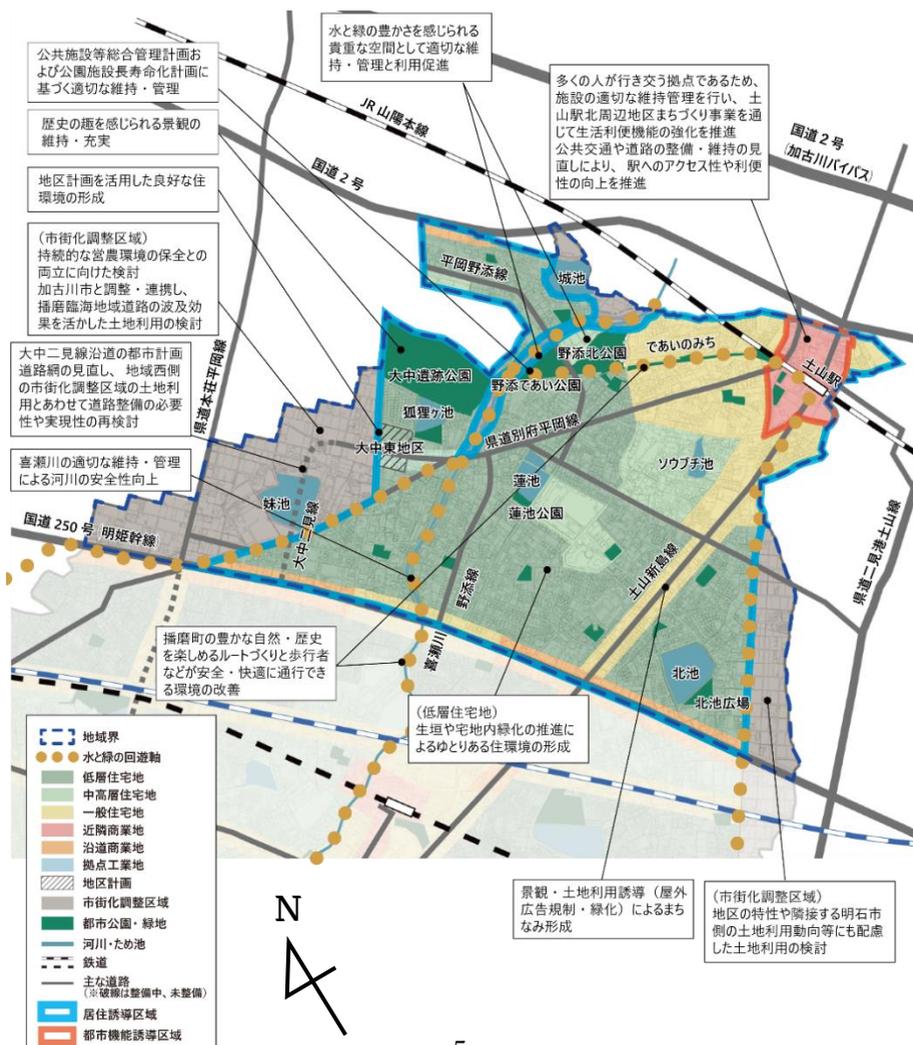
播磨町では、避難場所・避難経路の確保をはじめ、建物の耐震化や日頃からの防災意識を高める取組などを通して、災害による被害をできるだけ抑え、安全・安心に暮らし続けられるまちを目指します。

地域づくりの方針

北部地域

北部地域では、JR 土山駅を中心としたにぎわいの拠点があり、その周辺には住宅地が広がっています。駅周辺の利便性を高めながら、良好な住環境を守り、暮らしとにぎわいがバランスよく共存する地域づくりを進めます。

北部地域の地域づくりの方針図



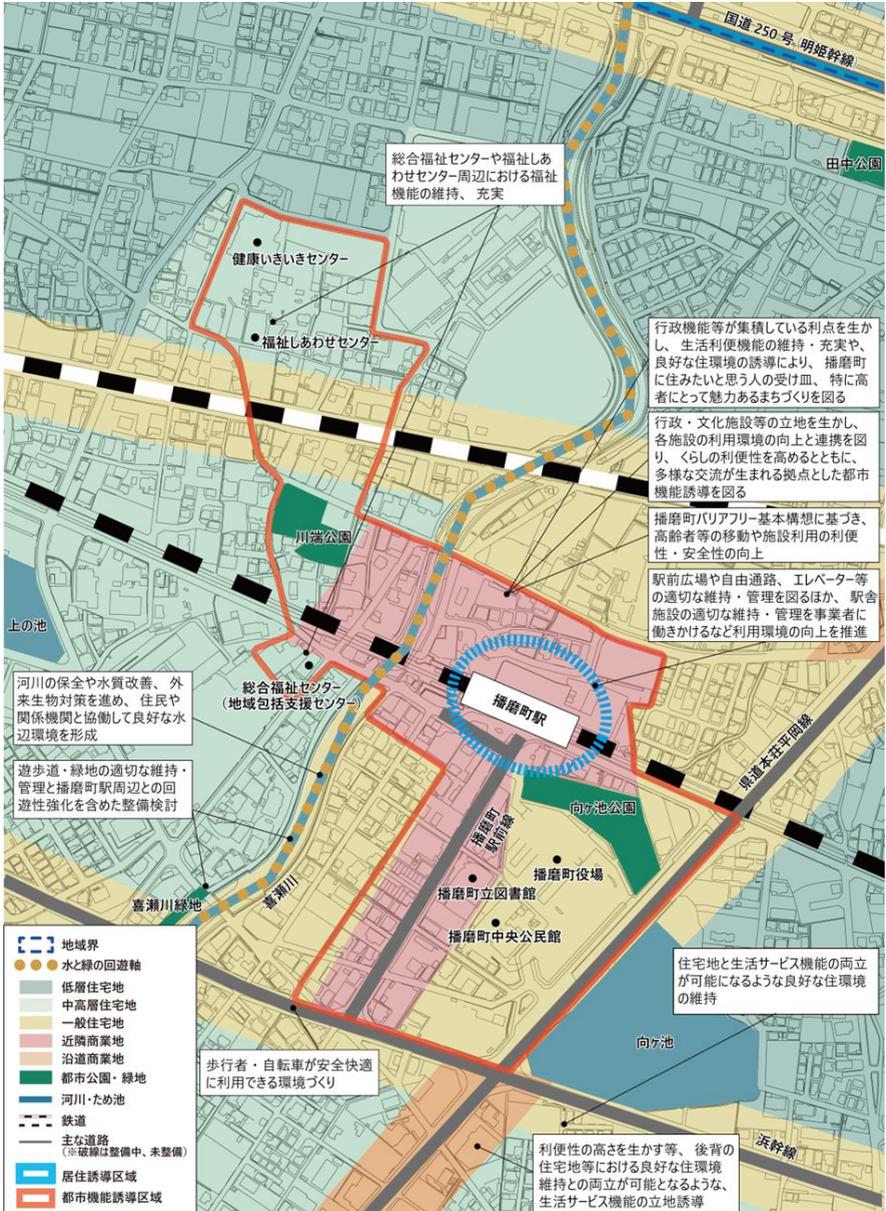
南部地域

南部地域では、播磨町駅の周辺に、行政や福祉、文化など、日常の暮らしを支える施設が集まっています。こうした施設を大切にしながら、歩きやすい環境づくりや空き家の活用を進め、世代を問わず安心して暮らし続けられる地域づくりを進めていきます。

南部地域の地域づくりの方針図



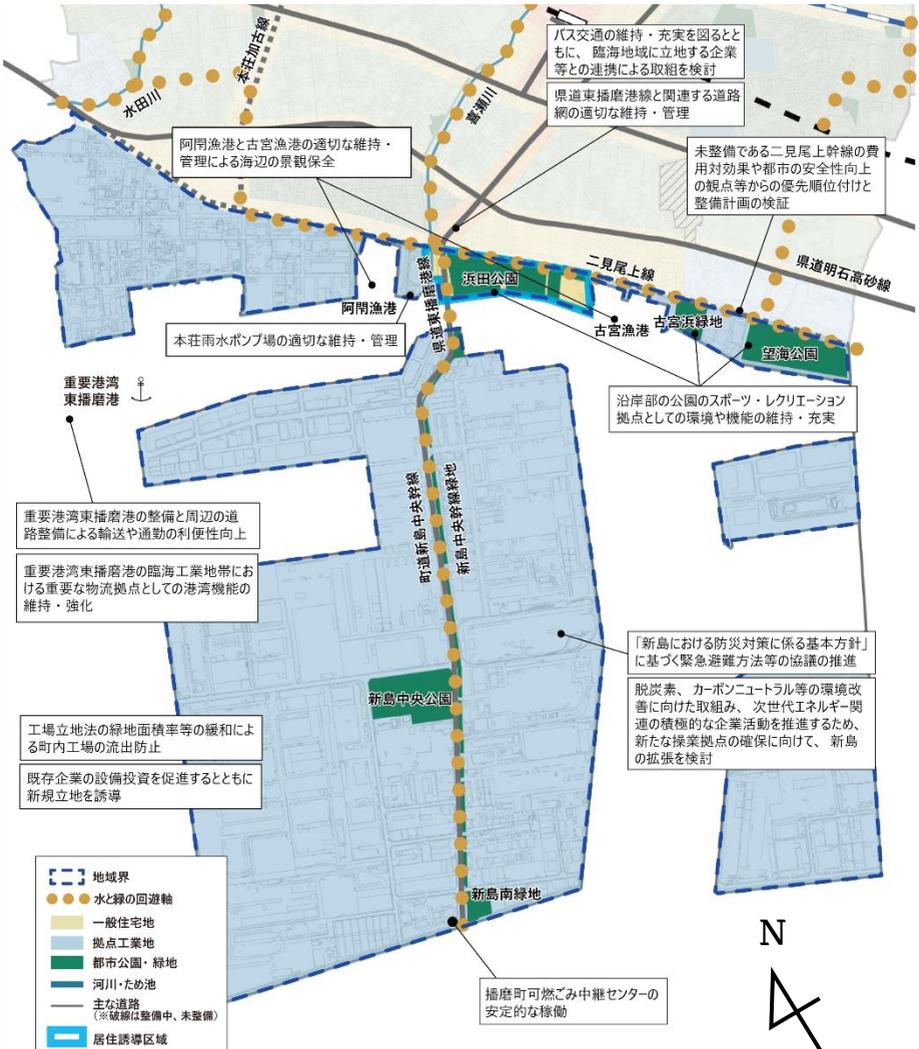
播磨駅周辺の拡大版



臨海地域

臨海地域では、工場や物流施設など、町の雇用や経済を支える施設が集まっています。こうした産業を大切にしながら、周辺環境との調和に配慮した土地の使い方を進めるとともに、災害への備えにも目を向け、防災・減災を重視した地域づくりを進めていきます。

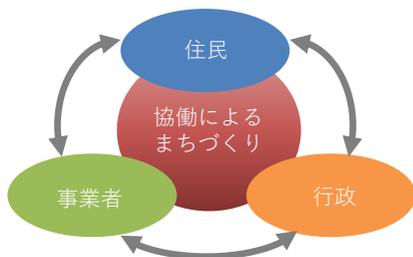
臨海地域の地域づくりの方針図



計画の実現化方策

協働によるまちづくり

住民・事業者・行政がそれぞれの役割を担い、対話を重視した取組を通じて、信頼関係に基づく持続可能な協働のまちづくりを推進します。



～ つなぎ つなげる まちづくり ～

効率的な都市計画行政の推進

関係部署との連携、立地適正化計画を生かした財政基盤の確立と民間活力の積極的な導入、広域的な連携・協力体制を強化します。

都市計画マスタープラン（立地適正化計画）の進行管理

PDCA サイクルが適切に機能する計画とするため、令和 14 年(2032 年)3 月を目標年次として、評価指標と目標値を設定します。

また、計画は概ね 5 年ごとに見直しを予定しています。



計画を詳しく
確認されたい方は、こちらへ

計画本編が
閲覧できる町
HP ページの
QR を添付予定

裏表紙

デザインは別途作成中